

研究者リーダーシップ・プログラム

「第7回 自身の強みを生かしてリーダーシップを執る」参加レポート

今回、「自身の強みを生かしてリーダーシップを執る」という研修に参加し、自分の強みとリーダーシップの関係について多くの気づきを得ることができました。

研修冒頭では、東村博子先生によるワークショップが行われ、日本社会の活性化に向けたDEI (Diversity, Equality, Inclusion) の重要性が説かれました。特に、男性優位の社会では、限られたアイデアや政策、生産、サービスにとどまり、多様な価値観が十分に認められない現状に対し、多様な女性の活躍を促すことで、より柔軟な生き方や政策、サービスが実現できる可能性に深い感動を覚えました。こうした多様性の推進により、個々が「幸せ」を実感できる集団が形成され、ひいては幸福な社会の創造へとつながるという視点が示されました。さらに、自己理解を深める方法が紹介され、自分の弱点を認識することで誰もが課題を抱えている現実にも気付かされました。仲間と「ビジョン」を共有し合い、互いに「win-win」の関係を築く大切さも強調されました。

研究の最後に行われたペアディスカッションでは、参加者同士が自らの強みや長所を共有し、その強みを活かした実践的なリーダーシップの事例について意見交換を行いました。自分自身の経験を振り返る中で、日常業務においてどのようにリーダーシップを発揮すべきかを再認識する貴重な機会となり、また、参加者同士のネットワークが自然と形成される結果となりました。

この研修は、自身の強みを再認識するとともに、それらを戦略的に活用する方法を再考する絶好の機会となりました。リーダーシップは生まれ持った才能だけでなく、継続的な自己研鑽と環境との相互作用によって育まれるものであるという考え方を学び、今後の自己成長に大いに役立つと感じました。今後は、研修で得た知見を基に、より積極的にリーダーシップを発揮し、組織の目標達成に貢献していきたいと考えています。

(路姍・名古屋大学大学院工学研究科 講師)